



Road to 2020

〈第6回〉女子ユースアジア選手権に帯同して

2015年8月27日から9月3日まで、インド・ニューデリーで開催されました第6回女子ユース(U17)アジア選手権に日本代表チームの帯同ドクターとして参加しました。帯同ドクターという仕事は、選手、スタッフのコンディショニングを整えることが最も大きな役割です。インドという気候としてもとても暑く、また衛生的にも決して良いとは言えない環境であるため、特に胃腸症状に注意を払いながら選手の体調管理を行いました。



選手たちはみな高校生で、初めての海外遠征という子どもたくさんいます。衣食住のすべてががらりと変わる状態ですので、とにかく精神的不安がないように会話することを心がけました。やはり生活を共にしながら、ハンドボール以外のことをたくさん会話することで、お互いの理解も進みますし、自分の状況をすすんで話し、また私からのアドバイスにも耳を傾けてくれるようになります。短期間で仲間となるには何よりお互いに目を合わせながら話をすることだと改めて感じた時間でした。

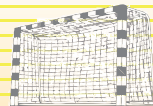


ハンドボールでは、日本の前には韓国の高い壁があります(先日のリオ五輪予選でも敗れました)。韓国女子チームはオリンピックで金メダルを獲得したこともあり、ジュニア世代から一貫した強化体制があります。この大会でも韓国に敗れ銀メダルに終わりました。しかしながら強い相手に離されまいと立ち向かっていく姿は日本の未来を感じさせてくれました。ハンドボールから離れると17歳の女子高生たちですが、『今何をすべきか』ということに対しての切り替えの早さは、『さすが日本代表になるまで心身ともに鍛えられている』と見習うべきものでした。わたしも長期入院の子どもたちを預かる小児科医として、『今何が大切か』を指導してきたいと思います。

長期の不在でご迷惑をおかけしました患者さん、スタッフにあらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。(小児科 貝沼 圭吾)



長期の不在でご迷惑をおかけしました患者さん、スタッフにあらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。(小児科 貝沼 圭吾)



糖尿病学習会のお知らせ
医療従事者対象

「糖尿病患者の疑問と悩み」 ▶ 講師／糖尿病看護認定看護師 渡邊 美佳
平成27年12月16日(水) 18:00 ~ / 三重病院中央棟 大会議室

